

# 「ミキスポーツ」って…偽物との闘い

ミキハウスグループ社長  
木村 皓一(80) 18

ウチとこの商品がヒットし始めたころに、子供服市場に類似品が出たんです。その中に「ミキスポーツ」というのがあるんです。今でもときどきネット上で安値で流通しています。商品を手を取ったら、素材が粗いし、品質が悪いのはすぐに分かる。だから、「偽物や」と訴えている人も多くいます。本物は本物にしかない、品質の良さがありますし、消費者のみならず、まもすべに感じ取っているはずなんです。

一度ね、「ミキスポーツ」という看板を出した店に抗議に行ったことがあるんです。店内には「MIKIHOUSE」と書いたウチとこの赤い紙袋が置いてあった。さらに本物のミキハウスのトレーナーも置いてあるんです。でも、売っているのは「ミキスポーツ」という偽物ですわ。品質の悪いモノを、ウチの商品に似せて作って売っているんですか？」と。

自分たちが一生懸命に知恵を出して、商品の企画を練って、縫製業者と念入りに打ち合わせをして出来上がった商品、そしてブランドをなんだと思ってるんですかね。知的所有権を悪用した商法に近いし、絶対許

# リクルートセミナー

日本リクルートセンター



会社説明会にて「昭和51年ころ

《高品質の商品を世の中にお届けする、という確固たる信念で昭和46（1971）年に創業。以来、一度も起業時の精神を曲げることはなかったが、「ミキハウス」のブランド力が高まると同時に思わぬ事態も》

ただ現在の中国での偽物の生産と流通は以前とは比較にならないスケールの大きさになっています。警告の意味で訴訟は起こし、一番目立つ相手業者の倉庫を摘発するなどしています。そんななか、日本で修業した中国人の社員が現地の弁護士と組んでブランドを守るために大活躍してくれているのは本当に心強いし、ありがたい話です。

コピー商品の摘発については当時、通商産業省（現経済産業省）にいらした「柳良雄さんにも、ずいぶんとお世話になりました。通産省時代は宮沢喜一、田中角栄両通産相の秘書で、近畿通産局長、総務審議官などをされた方です。『柳さんは類似商標を管轄する特許庁を紹介してくれました。その後も非常に懇意にさせていたたいいます。通産省退官後は「一柳アンシエイツ」を設立し、政財界の幅広い人脈を使って「一流塾」という社会人塾を運営されています。同じ世代ということもあり、大いに刺激を与えてくれる人物ですね。

（聞き手 植村徹也）

せない気持ちになりました。

《訴訟の結果、平成4年9月、不正競争防止法に抵触するとして、「その商品の販売をしてはならない」という判決が下った》

勝訴したといっても、販売を止められた偽物商品は売りつくされた後の話でした。結局、新商品の偽物を摘発しても間に合わないんです。商売の世界にはいろいろなお客がいるし、いろいろなやり方を考えるもんじゃないかと、つくづく考えさせられました。手間もお金もかかった。とにかく苦い経験でした。

でも、ものは考えようです。どうせウチみたいな高品質の商品には仕上げられていないし、偽物はどこまでいっても偽物です。マネされるのは一種の有名税やし、訴訟を起こすお金も手間ももったいない、という思いに至ったんです。結局、お客さまの間で実情が理解されるに従って、相手の商売も先細っていったようです。

## 話の肖像画